トップインインターライン

中通し 振出船竿

取扱説明書

この竿を正しくご使用していただくために、ご使用になる前によくお読みください。なお、後日必要な時のためにお読みになった後は、大切に保管してください。

使用上のご注意

⚠危険 ⚠警告 ⚠注意

⚠危険 感電注意

＊この表示がある欄では、誤った使い方をすると「死亡または重傷」「傷害または物損」が発生する可能性があります。

DAIWA

安全上のご注意

⚠危険

高圧線への接近による放電や感電、さらに落雷による感電は、最悪の場合重大事故（感電死）を招く恐れがあります。尚、水に濡れたグラスロッドも同様の危険がありますのでご注意願います。

①電線との接触による感電

高圧線・線路・鉄橋等の電線による感電に注意してください。釣竿は素材特性上、電気をよく伝えます。
特に電線等に接触または、釣竿を近づけただけでも感電して死亡事故の原因となります。釣り場を移動する時は竿をたたみ高圧線・線路・鉄橋等の電線の下または近くでは絶対に使用しないでください。

②落雷による感電

落雷による感電に注意してください。使用中、雷が発生した時は、ただちに釣竿から離れ安全な場所に避難してください。落雷による感電死を招く恐れがあります。

③釣り場以外の電線による感電

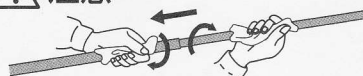
釣り場以外で釣竿を使用し、電線に触れる事故が発生しています。釣竿を使用する時は、周囲の安全に十分注意してください。感電による感電死を招く恐れがあります。

⚠危険

気象条件により、空気中に電気を帯びている場合がございます。ビリビリと電気を感じるのはその為です。天候の変化等により危険を伴いますので、そうした場所での釣りはお避けください。落雷・感電による感電死を招く恐れがあります。

⚠警告 キャスティング（投げる）時の警告

振り込み時は周囲に人がいないか、十分に安全を確認してください。釣針が人にささったり、ウキ、オモリが人に当たると非常に危険で、重大事故に繋がる恐れがあります。

⚠注意 固着のゆるめ方

釣竿の固着（継部が食い込んで外れない時）は継目の両側近くに、すべり止めを当てて握り、互いに逆方向へヒネリながら押して、継目をゆるめてください。その際、一気に力を入れると釣竿の継目に手を挟み、ケガをする恐れがあります。

⚠注意

幼児の手の届く所には置かないでください。予期せぬ事故やケガに繋がる恐れがあります。

ご使用前に必ずお読みください。

⚠ 注意 根掛かりの外し方

根掛かり（水中、陸上での障害物に仕掛けが絡み外れない状態）した時は、無理に釣竿をあおらないでください。竿が折れたり、外れた仕掛けが飛んできてケガをする恐れがあります。
根掛かりは、出来るだけ、糸を手にとって引っ張って糸を切ってください。その際、糸で手を切る場合がありますので、必ず手袋やタオルで手を保護してください。

⚠ 注意 破損時の取り扱い方

使用中、万一竿が破損（折れ、割れ、欠け、剥離）した場合、破損した箇所や破片で手などケガをする恐れがありますので触れないでください。

⚠ 注意

竿を釣りの目的以外に使用しないでください。竿が折れ、ケガの原因になります。

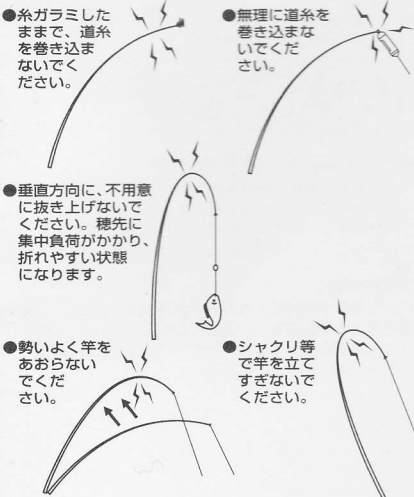
⚠ 注意

竿の一部や穂先等を無理に曲げると折れることがあります。折れた竿の一部が反動で顔や体に当たり、ケガをする恐れがあります。

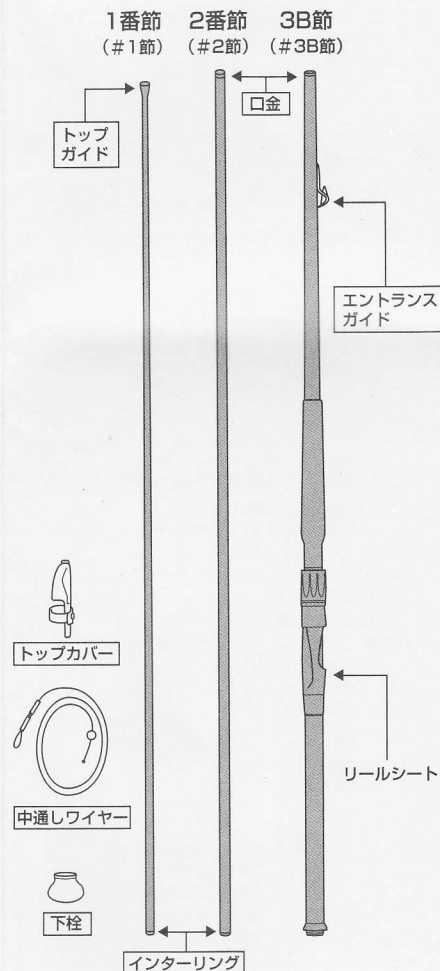
⚠ 注意 安全に釣りをして頂くために

万一、竿が破損してしまった場合、破損した竿の一部が反動で顔や体に当たり、ケガをする恐れがあります。釣りをする際には、安全のためサングラス（偏光グラス）、帽子の着用をお勧めします。

- 糸ガラミしたままで、道糸を巻き込まないでください。
- 無理に道糸を巻き込まないでください。
- 垂直方向に、不用意に抜き上げないでください。穂先に集中負荷がかかり、折れやすい状態になります。
- 勢いよく竿をあおらないでください。
- シャクリ等で竿を立てすぎないでください。

各部の名称と仕様

分解図

★イラストは、中通し振出船竿（3本仕舞）で説明されております。
★トップガイド、トップカバー、ワイヤー、下栓等のパーツ類は、製品によって構造・仕様が異なります。
★中通しワイヤーは、取扱説明書に添付してあるか、またはワイヤー収納ケースに入っています。
★修理および部品請求の際にはこの名称をお使いください。

TG=トップガイド 、 B=元竿

使用上のご注意

●竿が大きく負荷を受けている時、グリップより前方で支えてしまうと集中負荷がかかり、折れやすい状態になります。特に船べり等にはご注意ください。

●ロッドホルダー、ロッドクランプ付の場合

金属製ロッドホルダー及び金属製ロッドクランプの使用時において強い締め付けを行いますと、締め付け部(素材等)の破損が生じる恐れがあります。
この様な破損による損害については当社としては、保証しかねますのであらかじめご了承ください。

●カタログ表示内の「適合ハリス」「錘負荷」でご使用されていても、急激な合わせやシャクリ及び、無理な振り込み等をされますと破損に至る場合がございます。ご注意ください。

●リールに装着した状態で、竿尻に衝撃を与えないでください。リールの足折れ及び、リールシートの破損や糸止め部のクラックを招く恐れがございます。ご注意ください。

●万が一、ガイドやリールシートのグラツキや傾きがございましたら、修理として販売店へお預けください。

●仕掛けを巻き上げる際に、巻き過ぎますとサルカンや仕掛けがトップガイドにつかえ、竿先の破損を招く恐れがございます。特に電動リールご使用の際は巻き込みに十分注意してください。
初回投入時やバッテリー交換後には仕掛け回収の際巻き込みによる穂先破損に十分注意してください。
巻き上げの際は、トップガイドの先にゆとりを持たせて取り込んでください。

●パイプシートのナットをキツク締め過ぎますと、リールの足がシートに食い付き外れにくくなる場合がございます。無理矢理ナットを回しますとナットのフードのカシメが外れ元竿交換となる場合もございますので、無理されずに修理として販売店へお預けください。

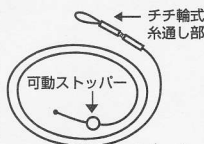
●竿の内部に、結びコブや糸のヨジレ玉が詰まった場合は、強い力を加えずに節尻方向に引き出してください。竿先方向に引っ張ると、より細い節の内面を圧迫することになります。無理をすると節タテ割れを招く恐れがございます。

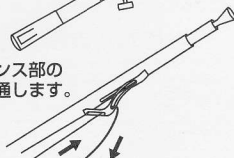
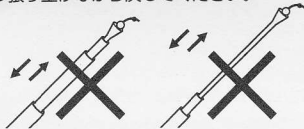
●詰まりが取れなかった場合、竹串や長い針金等で突かれますと除去できなくなるばかりではなく、節を破損する恐れもございます。詰まりが取れなくなった場合は無理されず、何を詰めたかご明記の上、修理としてお預けください。

※なお状態によっては除去できない場合もあります。

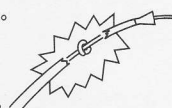
使用上のご注意

道糸の通し方

トップインインターラインは、糸を通したまま仕舞え、持ち運ぶことができます。
糸通しは乗船の前等、ご使用前に済ませておくことをお勧めします。

1 元竿にリールを取り付け、道糸を十分に引き出します。

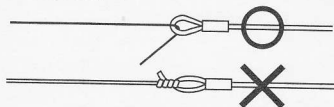
2 道糸をエントランス部のガイドリングに通します。

ワイヤーの入った状態のまま、エントランスガイドより前の節を伸ばした後に戻しますと、ワイヤーをはさみ込み傷めることがあります。節を戻す場合は、必ずワイヤーを取り出すか、はさまないようワイヤーを引っ張り上げながら戻してください。

⚠ 注意　ご使用される道糸の注意

●先糸は、ご使用できません。

※1番節の先端内径は細いため、糸の結びコブを無理に通そうとすると、1番節が割れたり、裂けたりすることがあります。

●ウキ止め、目印等をご使用の場合や糸の結びコブを通す場合は、あらかじめ1番節をスムーズに通ることを確認してからご使用ください。
抵抗がある場合は絶対に無理に通さず、元の方から引き出し道糸かウキ止めを小さいサイズに換えてください。

使用上のご注意

⚠注意 中通しワイヤーご使用上の注意

●中通しワイヤーで糸を通す時には、チチワ部分に絶対結ばないでください。

付属の中通しワイヤーは、多少クセがつくことがあります。以下の点にご注意ください。

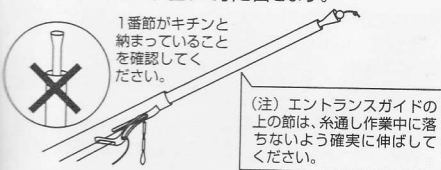
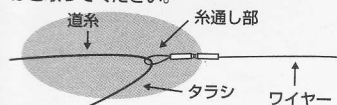
●強くしごいたり、折り曲げたりしないでください。

●小さくかつ強く巻いたりしないでください。

●保管する際には、指4本分に軽く巻く程度が最適です。

●使い終わったら必ず竿袋のワイヤーポケットまたは、ワイヤー収納ケースに仕舞うようにしてください。伸ばしたままバッグ等に入れますと、クセがつく原因となります。

3 エントランスガイドの上の節を伸ばして、竿全体をエントランスが下向きになるよう傾け、ワイヤー糸通し部をエントランス開口部から出してください。出にくい場合は竿を軽くたたくと出てきます。
ワイヤー先端が出た後、先端部を軽く引っ張ると作業のしやすい位置まで引き出せます。

（注）エントランスガイドの上の節は、糸通し作業中に落ちないよう確実に伸ばしてください。

4 ワイヤー先端の糸通し部に糸を通し、タラシを1節分ほど取ってください。

5 竿先の方からワイヤーをゆっくりと引っ張って、道糸を通してください。ワイヤーは上に向けて引っ張ってください。下に向けて引っ張ると先端部が引っかかってしまいます。

道糸を通したら、スナップ付サルカン等を付けるようにします。道糸が中に引っ込んでしまうようなことを防ぎます。

使用上のご注意

使用上のご注意

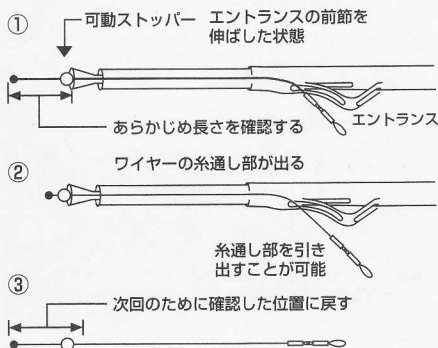
●可動ストッパー方式ワイヤーの使い方

＊可動ストッパー方式の場合は可動ストッパーの長さをあらかじめ確認してからご使用ください。尚、次回のご使用に際し、可動ストッパーをもとに戻しておくことをお勧めします。

①

②

③

次回のために確認した位置に戻す

※油性マーカー等で印を付けておくと便利です。

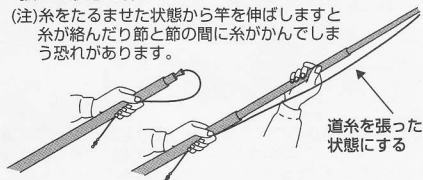
竿の伸ばし方

●1番節から順番に1本づつ引き出し、少しひねりながら継目を固定します。

(注)必ず最後に止まるまで伸ばしたことを確認してください。
合わせ部分が濡れていますと、固着する場合がございます。
ご注意ください。

●エントランスガイドとリールシートが別の節にある場合は、リールシートと一直線になるように固定します。

●糸が通った収納状態から竿を伸ばす場合は、糸を引っ張った状態で伸ばすようにしてください。

(注)糸をたるませた状態から竿を伸ばしますと糸が絡んだり節と節の間に糸がかんでしまう恐れがあります。

⚠注意	合わせ部が緩んだ状態でご使用になられますと口割れや折れを招く恐れがございますのでご注意ください。(ご使用中に継部のわずかなガタを感じられた時は合わせが緩んでいます。こまめにご確認ください。)

●合わせ部が濡れていますと、固着する場合がございます。
ご注意ください。

竿を仕舞う時のご注意

★ご使用後の仕舞い込み時は、必ず元竿から順番に継目近くの両側を両手で握り、ヒネリながら押すようにして、継目の固定を緩めて収納してください。

⚠注意	合わせを緩める際に、一気に力を入れて竿に手を挟まないようご注意ください。

1. 糸を巻き取って仕舞う場合

●竿を仕舞う時は、竿を伸ばした状態で仕掛けを切ってリールに糸を全て巻き取ってから各節を仕舞い込んでください。

2. 糸を通したまま仕舞う場合

トップインインターラインは、糸を通したまま仕舞え、持ち運ぶことができます。

⚠注意	トラブルなくご使用いただくため必ず以下の注意をお守りください。

●エントランスガイドの上の節を仕舞う時はエントランス部で糸が折り返される分、糸が引きこまれます。あらかじめ、その分糸が出るようにして、穂先やインターリングの損傷を防いでください。

●逆にエントランスガイドの前の節にその上の節を収納する場合は、竿の内部で糸がたるまないように、糸を張った状態で収納してください。糸が緩んだ状態で収納すると内部で糸が絡む恐れがあります。
下記のいずれかの方法で収納してください。

糸がたるまないように収納する方法

軽いオモリや仕掛けをたらして収納する方法

①重いオモリをご使用の場合は軽いオモリに交換してください。竿を傷める恐れがあります。

オモリや仕掛け

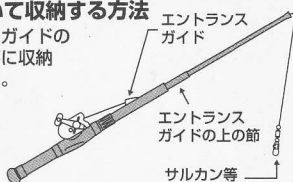
②節が収納された分オモリの重みで糸が排出されるのを確認しながら仕舞い込んでください。

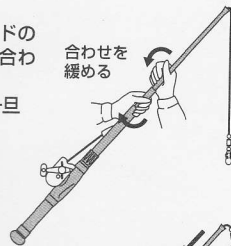
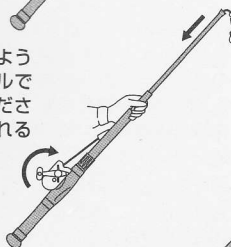
リールを巻いて収納する方法

①エントランスガイドの上の節を元竿に収納してください。

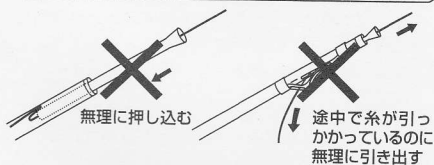
エントランス
ガイド

エントランス
ガイドの上の節

サルカン等

使用上のご注意

②エントランスガイドの上の節とその節の合わせを緩めます。
そのまま収納せず一旦止めてください。

③節が急に落ちないよう押さえながらリールで糸を巻き込んでください。糸に引っ張られることにより節を収納させます。

手で糸を張りながら収納する方法

各節ごとに、手で糸を引っ張り常に糸を張った状態を保ちながら仕舞い込んでください。

⚠注意	糸が絡んで引っかかった場合は、無理に1番節を押し込んだり、糸を引き出したりしないでください。 糸や竿を傷める恐れがあります。

絡んだ場合は上の節を持ち上げて、糸を上から引き出すとほとんどの絡みは、簡単に取れます。

上から糸をゆっくり引き出す

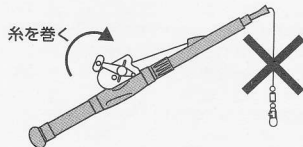
上の節を少し持ち上げる

●万が一、どうしても絡みが取れない場合は下栓をはずして各節を抜いて絡みを取ってください。

⚠注意	竿を仕舞った状態で強い負荷をかけたまま糸を巻かないでください。 インターリングや道糸を傷める恐れがあります。

使用上のご注意

竿の収納方法

※必ず錘等を外
て負荷をかけ
いようにして
ら糸を巻いて
ださい。

⚠注意	●糸を通したまま仕舞っている場合は、節を回転させないでください。糸が絡む恐れがあります。 ●移動時には、トップカバーを必ず使用して節が固定されていることを確認してください。竿を傷めたり、糸が絡む恐れがあります。

固着した場合の処理

●固着は、水が付着した時や、魚の強い引きによって竿が引き出された場合でも起こることがあります。

●固着した継目の両側近くに、ゴムシート等の滑り止めを当てて握り、お互いに逆方向にヒネリながら押して、継目を緩めてください。

注意	この際に一気に力を入れると、竿の継目に手をはさむ場合がありますので、注意しながら除々に力を入れてください。

前記の方法で固着が緩まない場合

●先ず、元竿の下栓を外し、固着したところより細い部分を必ず抜き取ってください。次に元竿の中に仕舞込んだ竿はそのままにしておきます。

●板面等のあまり硬くない水平面に垂直に立てて、元竿や仕舞い込んだ竿を誘導管のようにして固着した2本を垂直にストン、ストンと落とせば、意外と簡単にはずれます。

⚠注意	特に、元竿と元上が固着した場合は、力まかせに強く落とせば、元竿の竿尻リングや元竿の破損を起こすことがありますのでご注意ください。

⚠注意	竿の構造上、固着を完全に防止することはできません。

いずれの方法でも、固着がゆるまない場合は、販売店または最寄りのダイワアフターサービス機関へお申し付けください。

使用後のお手入れ

⚠注意

●タワシ、みがき粉、ベンジン及びシンナーの使用は絶対に避けてください。竿の塗装面及び時には竿まで傷める原因となります。

※竿の汚れは、真水で洗った後に、乾いた布で拭き取ってください。

※市販のロッドクリーナーやワックス等は、ご使用にならないでください。塗装面を傷めたり、色落ちする恐れがあります。また、固着の原因となりますので、ワックスや潤滑油を節の合わせ部に塗布しないように注意してください。

●ご使用後、竿を濡れたままの状態で保管しないでください。次回のご使用時に固着を引き起こすことがあります。竿が濡れた場合は必ず、節を一本ずつ陰干ししてから保管してください。

●乾燥等で節を立てかける際は絶対に倒れない様にしてください。折れの原因となるクラック（ヒビ）や破損の恐れがあります。

●ご使用後は安全な状態で竿を保管してください。倒れたり、他のものとぶつかったりすると、破損することがあります。

●車のトランク等に長期間放置しないでください。高温、密閉状態での長期間放置は竿の大敵です。

竿内部のお手入れ

使用後は真水かぬるま湯を通してください。
ベンジンおよびシンナー等の有機溶剤や熱湯等は、竿内部の特殊表面処理を傷める可能性があります。
一番節はトップガイドを外して水洗いした後、穂先側から強く息を吹き込んでいただくようにすると、水分や小さなゴミを取り除くことができます。

内面の水分等を、ティッシュ等を詰めて拭き取る行為は詰まる恐れがありますのでお避けください。

●ブリスター（水ぶくれ）の防止

汚れたままの竿を密閉状態にすると、竿内の水分により塗装面に水ぶくれ状のブツブツが発生します。
これを防止するには、水分を十分拭き取り、風通しの良い場所に陰干しして水分を完全にとってください。

●腐蝕錆の防止

汚れたままの状態にするとメッキ面、その他の加工処理面の自然退色及び金属部分の腐蝕により、下栓等に不具合が発生することがあります。これを防止するには塩分、水分、ゴミ等を完全に拭き取ってください。

その他のご注意

●カタログ表示の「適合ハリス」「錘負荷」は、竿を
お選びいただく際の慣例上の目安であり、強度を
表したものではありません。

●竿のしなりに、糸巻きの厚塗り部の伸びがついて
いけず、糸目に沿ってヒビが入る場合がございま
すが、基本機能（ガイドやシートの固定力）に問題
はございません。現在の技術では糸止め厚塗り部
のヒビ割れを完全に防止することはできません。

●竿の曲がりについて
現在のロッド生産技術上、グラス、カーボンなど
素材の違いを問わず、各部分に発生する若干の
がりを100%排除することは不可能な状態です
また特に柔軟さを追求したタイプの竿では、強
曲げられた場合などに曲がり癖が残ることがあ
ます。強度機能上は問題ありませんので若干の曲
りはご了承ください。

⚠注意　凍結時のご注意

寒冷地では厳寒時ご使用中竿内部の水が
凍結し、ご使用できない場合があります。

⚠注意

※自重は素材・塗料・部品等により、ばらつきますので
標準自重で表示しております。
※全長は合わせの深さ等により、ばらつきますので標
全長で表示しております。標準自重・標準全長、その
の仕様も公正競争規約に基づく表示をしております
※竿は一本一本手作業で仕上げられています。そのた
商品により多少の色、質感のバラツキが生じる場合
ありますのでご了承ください。
※ご使用になられた頻度、または外的要因により発生
た不具合（塗装・メッキ、その他の加工処理面の自
退色、腐蝕、剥離、こすれ傷等）は保証期間内であっ
も有償となります。
※穂先を詰めたり、ハカマをつけたりする等の改造は
ないでください。改造後、故障した場合は保証期間
であっても有償となります。

その他のご注意

修理部品に関するお願い

パーツを注文される際には、必ず商品名と商品番号をお知らせください。弊社では修理部品は商品番号によって分類しています。
穂先交換などご自分で修理される場合には、商品コード番号をお知らせください。商品コード番号は保証書（メーカー希望小売価格2万円以上の商品のみ、添付しています）、元竿の商品名近くやパッケージのラベルに記載されています。
商品コード番号を控えて、修理の際には必ずご提示ください。

- ●節をお取り寄せ頂いた場合は、調整が必要な場合がございます。
- ●改造後の責任は負いかねます
  改造後の故障については、保証期間中であっても負いかねる場合がありますのでご注意ください。
- ●修理を依頼される時
  お買い上げの販売店まで製品（破損部分だけではなく、製品自体全部）をお預けください。
- ●補修用性能部品の保有期間
  弊社はこの製品の補修用性能部品を、製造打ち切り後6年間保有しています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
- ●万一の故障の時
  保証書付の商品については、保証書を添えて、お買上げの販売店までお持ちください。責任を持って修理いたします。

お客様センター
フリーダイヤルTEL.0120-506-204

お問い合わせ受付時間
AM9:00～PM5:00（土・日・祝祭日は除く）

電話番号につきましては、誠に勝手ながら予告なしに変更することがありますので、ご了承ください。

グローブライド株式会社
70XY31502